

5 アセスメントシートの記入法

以下のケースを仮定して、アセスメントシートと支援プランの記入例と特徴をみてみましょう。

▼ 仮想ケース ▼

母、継父、中1男児、小6女児、小3男児、年長女児の多子世帯ステップファミリー。
 相談主訴は、中1男児の不登校傾向、家庭内暴力。
 母・継父からの暴言・暴力あり、小6、小3の子は一時保護歴あり。
 母は、DVの影響による精神症状があり精神科通院中。
 特に、中1男児と母の関係が不良で、子どもから母・継父への暴言暴力、継父から子への暴言・暴力あり。

5-①. アセスメントシートの記入法【子どもの力】

発達特性や情緒行動上の問題を含む心理的側面、身体的側面、家族関係・友人関係などの対人関係やソーシャルスキルを含む社会的側面について尋ねています。例えば、発達特性があったとしても、日常生活に支障がなければ「強み」と考えます。

1 ニーズが強みにどの程度該当するか、頻度や程度を10段階で評価し、ビジュアルスケールに✓をします。支援後は、○で再記入します。

2 非該当・未確認の場合は「非・未□」欄に✓をつける。

3 ★項目のニーズが高い(4以下)項目が複数ある場合はハイリスクの可能性に注意する。

1. 子どもの力	まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No (ニーズ) (強み) Yes	ハイリスク???
(1) ★ 日常生活や学習面に支障のある、知的発達の偏りや特性（言葉での理解・コミュニケーションの苦手さ、視覚認知の不器用さ、興味関心の偏り、衝動性、注意散漫さなど）がない	非該当 0 5 10 未確認 □ 10	□
(2) ★ 家族との良好な人間関係がある	非・未 □ 0 5 10 □ 10	☑
(3) 友達との良好な人間関係がある	非・未 □ 0 5 10 □ 10	
(4) 日常生活や学習面に支障のある身体疾患や身体的不器用さがない	非・未 □ 0 5 10 □ 10	
(5) 年齢に応じたソーシャルスキルが身についている	非・未 □ 0 5 10 □ 10	
(6) 情緒・行動上の問題（激しいかんしゃく、精神不安、万引き、金品持出など）がない	非・未 □ 0 5 10 □ 10	
(7) 養育者以外の安心して頼れる大人がいる（保育士、担任、近所の人、親戚など）	非・未 □ 0 5 10 □ 10	
(8) 国籍、宗教など、自分の文化的アイデンティティを受け入れている	非・未 □ 0 5 10 □ 10	

特記事項 ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください

○月から家族関係がさらに悪化
学校での適応はよく、友人関係は良好。中1、小6の子どもは実父からの暴力を受け、MへのDVも目撃している。

4 ④ハイニーズ、ハイレベル（強み）の項目は、場面、頻度、程度などの具体的内容を特記事項に記載する。

家族関係不良、激しいかんしゃく、頼れる大人がない(居場所がない)というニーズあり。

主訴に不登校傾向があるものの、発達特性の偏りはなく、友人関係が良好で、日常生活には大きな支障がないという強みがある。

5-②. アセスメントシートの記入法【基本的養育】

基本的な養育や子どもの保護のための日常生活のスキルや、居住環境や遊びの環境を整えているかについて尋ねています。

2. 基本的養育		まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No (ニーズ) (強み) Yes		ハイリスク??
(1) ★	子どもの年齢に応じた食事を提供している（食材の確保、衛生的な食材の準備、定期的でバランスの良い食事）	非該当 未確認 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 8]	<input type="checkbox"/>
(2) ★	衛生面に配慮している（衣類や身体の清潔、口腔衛生、皮膚衛生など）	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 9]	<input type="checkbox"/>
(3) ★	必要な場合に医療的ケアを受けさせている（定期健診、救急医療、歯科検診、予防接種など）	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 9]	<input type="checkbox"/>
(4)	子どもの年齢や季節に応じた衣服や、園や学校で必要な持ち物の準備をしている	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]	
(5)	家族のため住環境を整えている（掃除・整理整頓、生活に適した部屋の広さ、空調、一人の空間）	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 3]	
(6)	子どもが遊びを選択できるようにしている（遊ぶスペース、適切な遊び道具、TVやネット、ゲームの時間を決めている）	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]	
(7)	就学前から保育園・幼稚園に通園させている	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 8]	
(8) ★	危険物や危険人物などから、子どもを守るように配慮している	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 9]	<input type="checkbox"/>

特記事項 ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください。
食事は家族みんなで食べるように心がけている。登園・登校は両親が協力して子どもたちをサポートしている。
6人家族には住居がやや狭く、個室は持てない。

基本的には強みの部分が多いが、家族の人数に対して住居が物理的に狭く、個室が持てず、家族間の距離が近いことはストレス因になりやすい。

衣食等、基本的な養育力は問題なくこの家族の大きな強み。

ハイリスクに複数の✓がある場合はリスクアセスメントを行う。

5-③. アセスメントシートの記入法【親子関係】

ボンディング、アタッチメントの側面から、子どもに安心感を与えることができる親子の肯定的な関係があるか、肯定的な関係を築くためのスキルや子どもとの適切な距離感などについて尋ねています。

3. 親子関係		まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No (ニーズ) (強み) Yes	
(1)	子どもを認め、子どもをほめている	非該当 未確認 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 3]
(2)	子どもと触れ合い、愛情をもって、子どもと関わっている	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]
(3)	子どもが親を頼り、親も子どもを信頼している	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]
(4)	余暇やレクリエーションを子どもと一緒に楽しむことや、そのための時間がある	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]
(5)	子どもが落ち込んでいる時や不安な時には子どもが安心できるよう対応している	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 3]
(6)	子どもが望んでいることや必要としていることがわかり、それに応じている	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]
(7)	子どもの様子に目を向け、耳を傾け、話す機会を持っている	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]
(8)	子どもの年齢に応じた期待を寄せ、子どもとの距離感を大切にしている（過度な干渉や無視がない）	非・未 <input type="checkbox"/>	0 5 10 [Progress bar with checkmark at 7]

特記事項 ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください。
子どもが何を望んでいるのかを考えることはできており、できる限り子どもと話をしようとしている。

この家族の大きなニーズは「親子関係」にあり、このニーズの要因として、基本的養育力や心理社会的安定が影響することが多い。

しかし、親は子どもと対話をしようという姿勢がみられ、改善の余地あり。

5-④. アセスメントシートの記入法【暴力を使わないコミュニケーション】

親子間、きょうだい間の暴力的なコミュニケーションの有無や、暴力を使ったしつけや子どもへの対応、メディアや性表現などの制御について尋ねています。

4. 暴力を使わないコミュニケーション		日常的に暴力がある=0、時々ある=5、まったくない=10 No (ニーズ)	Yes (強み)	ハイリスク??	
(1) ★ 親から子どもへの暴力がない	非該当 未確認 <input type="checkbox"/>	0	5	10	<input type="checkbox"/>
(2) ★ 子どもへの暴言がない	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	<input checked="" type="checkbox"/>
(3) ★ 子どもの前での、養育者間の暴言・暴力がない	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	<input type="checkbox"/>
(4) 子ども間の暴言・暴力、子どもから親への暴言・暴力がない	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
(5) 子どもをからかって笑ったり、バカにしたり、恥をかかせるような言動がない	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
(6) 暴言・暴力を使わないしつけ・指導をしており、子どもの暴力的な言動に対しても暴力を使わずに対応している	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
(7) 暴力シーンや過激な性表現など、過剰な刺激のあるメディアや性的な状況を制御・制限している	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
(8) 子どもの意思を無視したり、子どもの限界を超えた課題を出していない	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
特記事項	ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください。親の片方に暴力があっても、片方が子どもを守ろうとしているか、などポジティブな側面があれば、記載する。 親子双方に暴言・暴力があり、暴言は毎日、暴力は週に1回程度みられる。				

ハイリスクに複数の✓がある場合はリスクアセスメントを行う。

他の項目と異なり、暴力の有無については、その頻度だけではなく、程度も特記事項に記載していく。

主訴に家族内での暴力があがっており、親から子への暴力もみられるが、頻度や程度をみると、緊急性は高くないと考えることができそう。

5-⑤. アセスメントシートの記入法【心理社会的安定】

経済状況、保護者自身の課題（身体疾患、精神障害、被虐待歴等）、支援環境について尋ねています。

5. 心理社会的安定 (夫婦関係・親族関係・経済状況・親の状態)		まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No (ニーズ)	Yes (強み)	ハイリスク??	
(1) ★ 安定した収入があり、家計をやりくりしている (定期収入や金銭管理)	非該当 未確認 <input type="checkbox"/>	0	5	10	<input type="checkbox"/>
(2) 親（養育者）同士や親とパートナーとの良好で安定した関係がある（関係性への満足度、家庭内の役割分担、別居中でも定期的な交流がある）	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
(3) ★ 養育者の発達特性、生育歴、精神疾患や身体疾患、嗜癖による養育への影響がない	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	<input type="checkbox"/>
(4) 養育者が自身の心身の健康を適切に管理している (定期的な健診、定期的な通院)	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
(5) 養育者と子どものための部屋やスペースが適度にある (高齢児の場合、子どもの寝室があるか)	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	
(6) ★ 他者を信頼することができ、社会的支援とのつながりがある (園や学校との協力、親族や友人からの養育支援、近隣住民との交流、支援機関との連携など)	非・未 <input type="checkbox"/>	0	5	10	<input type="checkbox"/>
(7) (養育者が外国籍の場合) 外国籍であることを理由に、地域で差別を受けることはない。また、宗教や文化的な活動に子どもが適切に参加できている。	非・未 <input checked="" type="checkbox"/>	0	5	10	
特記事項	ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください。 母の精神疾患により、父のみの収入となり、経済的にはギリギリの生活。父母間の関係は良好。母は、精神疾患があるものの、きちんと通院はできている。支援機関への通所も定期的に行っている				

母の精神疾患は養育に影響しており、経済的にも厳しい状況であるが、父母間の関係が良好であること、医療機関や支援機関とつながっていることは強みであり、ニーズをカバーしている部分もある。

5-⑥. アセスメントシートの記入法【しつけ・教育】

子どもへのしつけや教育に関する子どもへの関りについての項目です。家庭内での役割、スマホの使い方や対人関係の取り方、登園・登校のサポート、家庭外の習い事等について尋ねています。

6. しつけ・教育		まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No (ニース) (強み) Yes	
(1)	子どもが理解できるように、わかりやすく説明している	非該当 未確認 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 7)
(2)	言葉や運動能力、感覚の発達を促し、登園・登校や学習のサポートをしている	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 4)
(3)	子どもが恐れを感じている時に、気持ちを共有しながら、克服できるように導いている	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 8)
(4)	子どもの個性と自己決定を尊重している	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 8)
(5)	年齢に応じた子どもの交友関係をみとめ、適切な連絡方法を保障している	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 8)
(6)	子どものプライバシーを尊重している	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 8)
(7)	家庭での子どもの役割や参加を認めている（過重な家事労働をさせていない）	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 2)
(8)	子どもを地域の社会活動に参加させている（子ども会、習い事など）	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 1)
(9)	TV、スマホ、ゲームなどの使用ルールがあり、そのルールが守られている。	非・未 <input type="checkbox"/>	0 ----- 5 ----- 10 ✓ (at 9)
特記事項	ニースの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください 長男、長女は母の代わりに、風呂の準備、洗濯、朝食づくりなどを行っている。 年長兄の次男には、やさしく声をかけることができている。		

子どもへの家事負担が大きく、友人と遊ぶ時間や勉強の時間が取れていない状況あり。金銭的にも厳しいため、習い事もしていない。

子どもの交友関係については認めており、スマホやゲーム等のルールも、大まかではあるが守ることができている。

*対象となるきょうだい児が複数いる場合は、必要な部分（例えば、1. 子どもの力、3. 親子関係など）は子どもごとにつけてみてください。

5-⑦. 家族の強みとニーズにもとづく支援プランの記入法

アセスメントシートを付け終わったら、こちらの支援プランに記入していきます。

記入は、左の ① → ⑤ の番号の順に記入していきます。

●家族の強みとニーズにもとづく支援プラン(支援者記入) 記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

記入順 養育者氏名() 子どもの名前() 担当者()

4 家族のテーマ 「～の問題を抱えた…な家族」「～な家族の…のケース」のような、20字程度で家族の特徴を捉えた家族のテーマを考えよう
親子双方の家庭内暴力に悩む、多子家庭ステップファミリー

3 おおきな目標：1～3年後に「こうなったらいいな」と思う家族の状態
家族全員が安心して一緒に暮らしている

ちいさな目標：3か月後に「こうなったらいいな」と思う家族の状態
養育者の目標 子どもの暴言・暴力に対して、暴力的ではない関りをする
子どもへの肯定的な関りを増やす
暴力がなくなっている。暴言の頻度が週1以下に減っている

1 A.家族の強みはどこか？ すでに持っている資源は？
どんな生活スキルはあるのか、誰とつながっているのかなど具体的に書いてみよう
・食事、洗濯、掃除等は家族で協力している。
・母が子どもの様子に目を向け、話をする時間を持とうとしている。
・不登校傾向にあるが、友人関係は良好

B.家族のニーズはどこか？ 家族の困り感が強いもの、支援者から見てニーズがあると感じるものを具体的に書こう
・子どもから親やきょうだいへの暴言・暴力
・継父からの暴言・暴力
・物理的なスペースが狭く、家族間の距離が近い
・肯定的に認め合う親子関係がない
・過重な家事労働が子どもの負担になっている

a.その要因は何か？(強みを支えているものは何か?)
「強み」に✓してある項目が、別の「強み」を支えていないかもみてみよう
・母は定期的に精神科へ通院し相談をしている
・父母の関係が良好
・子どもの発達特性のバランスが良い

b.その要因は何か？ 「ニーズ」に✓がついている項目が要因になっていないか？何によってBのニーズが起こっているのかを考えてみよう
・暴力を使わないしつけの未学習または、親の暴力的な関わりをモデリング
・母の精神疾患による精神的余裕のなさ
・経済的余裕のなさ

C.ニーズはあるが、その中にある強みはなにか？ 小さいけれどできてるエピソードに注目してみよう
きょうだい関係はケンカもあるが、仲よく一緒に遊んだり、下の子のお世話をすることもある。
家族で一緒に食事をしたり出かけたりを楽しむこともある

2 「強み」を活かす・増やす支援
養育者 家事援助の支援により、親子で関わる時間を増やす
子ども 家庭外の良い対人関係の量を増やす(居場所をつくる)

「ニーズ」を減らす・増やさないための支援
養育者 ・暴力を用いないしつけ・肯定的な親子関係をつくるためのペアトレ
・市営住宅の申込
子ども 怒りのコントロール/暴力を用いないコミュニケーションの学習

5 安心スケール 0 ← 要家族分離 ← | | | | | 5 | | | | | 10 → 分離不要
リスクのサイン
親子双方の暴力頻度が週1回以上に増える。

リスク増大時の対応
・児相通告
・母の入院、または子どもの一時保護

1 強みとニーズをアセスメント

アセスメントシートをつけて、この家族の「強み」と「ニーズ」を把握したら、その「強み」や「ニーズ」がどこから来ているのかを考えます。強みとニーズは重複したり、ある時は強みがニーズになることも、ニーズが強みになることもあります。「強み」と「ニーズ」のどちらも一目で見える形にしておくことで、次の支援を考えるステップにつながります。

2 支援プラン立案

どの項目に「強み」や「ニーズ」があるのかを確認したら、次のページの支援リストをみながら、どのような支援が可能か考えます。どのような支援資源があるかは、その地域によって差がありますので、ご自身の地域にどのような支援資源があるかを追加してみましょう。

3 大きな目標・小さな目標

いきなり大きな目標をたてても、高いハードルを越える気力がなくなるとは家族の力は発揮されません。少し頑張れば達成可能な小さな目標をたて、スモールステップで取り組むことが大切です。

4 家族のテーマ

「～の問題を抱えた…な家族」「～な家族の…のケース」のような、20字程度で家族の特徴を捉えた家族のテーマを考えます。家族のテーマを簡潔に表現することで、そのケースの全体像をざっくりとつかむトレーニングにもなります。

5 安心スケール

既存のアセスメントツールは、虐待リスクのアセスメントと、ニーズのアセスメントが区別なく含まれていました。虐待ケースであっても、家族分離にまではいたらない微妙なラインの家族を支援するときに、上記のアセスメントでは、虐待リスクが強調されてしまうため、ニーズへの支援に焦点をあてにくいという課題を感じていました。ここでは、「安心スケール」を用いて、リスク増大時のシミュレーションをしておくことで、「強みとニーズ」にもとづく支援の展開に集中することができます。

5-⑧. ファミリーサポートプランの使い方

まずは、事前に親子別々に次の項目について話を聴き、その後、子どもと親と合同で話し合います。学校などの関係者協議で使うこともできます。どこから記入するかは、家族が取り組み易いところを家族に決めてもらいます。

① おおきな目標

「こうなったらいいな」という家族像を共有します。親子それぞれで違う場合はどちらも記載します。

② いま困っていること・心配なこと (ニーズ)

「いま困っていること・心配なこと (ニーズ)」を10段階のスケールで親と子どもそれぞれにつけてもらいます。親と子どもで困り感が共有されている時もあれば、親は困っていても子どもは困っていない、またはその逆の場合もあり、家族内で困り感を視覚的に共有することができます。

③ 家族の力

今の家族のいいところ、できているところを、子どもや親から出してもらい。支援者からみた家族の力についても伝えます。

④ まずやってみる (支援プラン)

ニーズを解消するために、できることをリストアップし、これから取り組む支援について具体的に確認していきます。

6 アウトリーチで使えるツール

家族や学校にアウトリーチ（訪問支援）をする時には、いくつもの遊び道具を大きなカバンに詰めて持ち運びます。家庭訪問して話すだけよりも、こういうツールがあることで子どもとの関係も築きやすくなり、親子関係再構築のために、親子合同で遊ぶこともできます。親子合同で遊んだ後は、親子それぞれで振り返る時間を持ちます。



① ファミリーボード

家族が今どんな状況か、どんな距離感にあるのかを視覚的に尋ねながらコミュニケーションをとります。まずは、「今の家族の状態」を尋ね、その後「こうなったらいいな」という家族の状態を尋ねます。棒を切って目を書いただけのハンドメイドです。どんな大きさの棒を選ぶのか、棒と棒の距離感、目の向きなどで家族の関係性が視覚的にわかります。



② 創作系ツール

スケッチブック、色鉛筆にクレヨン、折り紙や紙粘土、塗り絵など、どこにでもある創作道具です。作業をしながらだと、緊張の高い子どももコミュニケーションを取りやすくなります。



③ 双方向コミュニケーションを促すツール

言葉のキャッチボールが難しい親子でも、綿や紙風船、ゴム風船でのキャッチボールはできます。綿テニス、手や座布団に乗せた綿を口で吹いて相手に飛ばし、相手はそれをキャッチする遊びです。狭い室内でも楽しめます。



④ 穏やかな競争ゲーム

トランプやウノなど、馴染みのあるゲームだけではなく、子どもも大人と対等に勝負できるゲームは、家族で盛り上がれます。親子が激しい競争になりすぎないゲームを選択することも大事ですが、子どもが大人に勝つことができるゲームは、子どもの自己肯定感の向上にもつながったり、親が子どもを褒める機会にもなります。



⑤ 協力ゲーム

協力したり、話し合ったりしながらゴールを目指す遊びは良い関係を築きやすくなります。ルールが簡単で、低年齢の子どもから大人まで楽しめるものを使います。右下の写真は、サイコロを転がして一緒にお話をつくっていく遊びです。支配 - 被支配関係や競争関係ではない協力的で対等な関係を遊びの中では体験できます。



⑥ 気持ちを共有できるゲーム

勝負をしながら、ドキドキワクワクを共有しやすいゲームです。黒ひげが飛んだ時、ジェンガが崩れた時、目を合わせて驚きや楽しさを共有することができます。

楽しい遊びを通すと、信頼関係を築きやすく、親子関係をよくしたり、子どもの自己肯定感を高めたりすることもできます。普段は怒ったりケンカしたりが多い親子も、一緒に遊ぶ時には思わず笑顔が出ることもあります。

7 課題と展望

このアセスメントツールや支援プランシートは、市区町村や児童家庭支援センターなどの様々な相談機関で共通認識を持つためのツールとして活用するだけでなく、支援できる人材を育成する観点から活用いただくこともできると考えています。

複雑で重層的な課題を抱える家族には、包括的なアセスメントとともに、様々な機関がネットワークをつくり、現状や目標など共通の認識を持って連携していくことが重要であり、今後は、多機関と共通認識を持つためのツールとしてさらに発展させていくことも必要だと考えています。このツールを使った研修会などを通して関係機関との連携ネットワークをつくり、共通の認識をもった支援を行うことを引き続き目指していきます。

さらに、SOS 子どもの村では、現在「子どもの村福岡」におけるショートステイ利用が急増しており、特に区役所がすでに支援している要支援家庭の利用が急増しています。このような、ショートステイ利用家族への継続的な支援やアフターフォローが課題となっていますが、その際にも今回開発したアセスメントツールを活用していきたいと考えています。

これからも多くの皆さまからご意見をいただきながら、子どもの権利にもとづく当事者主体の家族支援の手法を模索していきたいと考えていますので、どうぞこのツールをご使用になったご意見ご感想をお寄せいただければ幸いです。

8 ダウンロード資料

- ・ 家族の強みとニーズアセスメントシート
- ・ 家族の強みとニーズにもとづく支援プラン
- ・ ファミリーサポートプラン
- ・ アセスメント項目別の支援資源リスト

QRコード
を読み取って
ダウンロード
できます。



<https://www.sosjapan.org/topics/publication/153728/>

(参考資料)

- ・ 在宅支援共通アセスメント・プランニングシート (2018)



No child should grow up alone

このガイドブックは、大和証券「輝く未来へこども応援基金」から助成を受けて作成しています。

【お問い合わせ先】

福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」

TEL : 092-737-8655 / FAX : 092-737-8665

MAIL : family-support@sosjapan.org

SOS子どもの村JAPAN WEB : <https://sosjapan.org>

